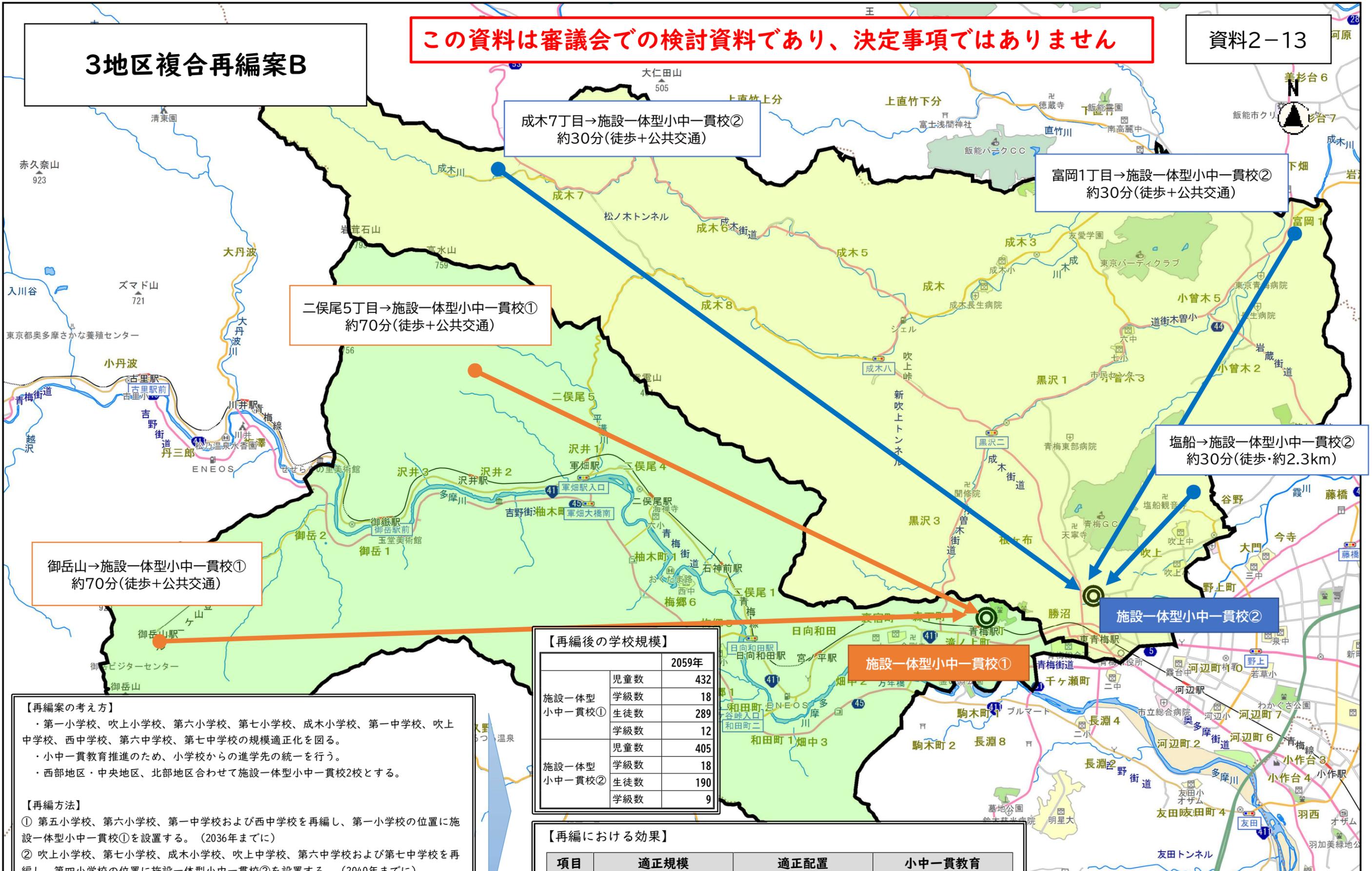


3地区複合再編案B

この資料は審議会での検討資料であり、決定事項ではありません

資料2-13



【再編案の考え方】

- ・第一小学校、吹上小学校、第六小学校、第七小学校、成木小学校、第一中学校、吹上中学校、西中学校、第六中学校、第七中学校の規模適正化を図る。
- ・小中一貫教育推進のため、小学校からの進学先の統一を行う。
- ・西部地区・中央地区、北部地区合わせて施設一体型小中一貫校2校とする。

【再編方法】

- ① 第五小学校、第六小学校、第一中学校および西中学校を再編し、第一小学校の位置に施設一体型小中一貫校①を設置する。(2036年までに)
- ② 吹上小学校、第七小学校、成木小学校、吹上中学校、第六中学校および第七中学校を再編し、第四小学校の位置に施設一体型小中一貫校②を設置する。(2040年までに)

・現在、霞台中学校へ進学する第四小学校区を施設一体型小中一貫校②に変更する。

【再編後の学校規模】

	2059年	
施設一体型小中一貫校①	児童数	432
	学級数	18
	生徒数	289
施設一体型小中一貫校②	児童数	405
	学級数	18
	生徒数	190
	学級数	9

【再編における効果】

項目	適正規模	適正配置	小中一貫教育
効果	◎	×	◎
内容	2059年まで望ましい規模を維持できる	御岳山等、一部地域にて通学時間が長時間となる。	施設一体型小中一貫校2校となる。

※色付きゾーンは小学校区を、黒枠は中学校区を表す。